

# がんの教室

田中 伸哉

②6

がんはタバコなどの外からの刺激物が原因で起こることが今はよくわかっていて、この外的要因の仕組みを99年前に証明したのが北大出身の獣医師、市川厚一だ。

1900年代の前半、

20代後半の若さだった市

川は、東大の病理学者、

山極勝三郎の下で研究員

## 市川厚一

として働いていた。

当時、イギリスの煙突掃除人に多くみられた皮膚がんの原因は、煙突のすすにあるとみられていた。山極はこの仕組みを解明しようと、市川にウ

## 「外的刺激で発生」証明

サギの耳にオリブ油に溶かした石炭のタールを塗るよう指示した。

市川は毎日、何十匹ものウサギの耳にタールを塗り続けた。非常に根気のいる作業で、だれもやりたがらなかったと伝えられている。その数は101匹。150〜300日後には全部で31匹に皮膚がんができた。世界で初めてがんを人



工的に発生させるという金字塔。山極と市川は15年(大正4年)にこの研究を発表し、19年にはこの功績が認められて帝国学士院賞を受賞した。

その後、市川は北大に

戻り、獣医学部病理学教室の基礎を築いた。これが現在の北海道のがん研究とがん医療の発展につながっている。

・医学賞の候補になったが受賞はならなかった。ところが、この年に受賞した、寄生虫でネズミの胃がんを発生させた研究は、その後、誤りであることが判明した。このため、山極と市川の研究は「幻のノーベル賞」と言われている。湯川秀樹が日本人初のノーベル賞を受賞する23年も前のことだ。

この連載の2回目にも書いたが、北大総合博物館は、市川が作ったウサギのがんの標本を展示している。若い人に、北海道にこのような人物がいたことも知っておいてほしい。

(北大医学部腫瘍病理学教授)